

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

総合研究報告書

研究タイトル

苦痛スクリーニング結果に基づく適切なセルフケア情報提供を可能とする
ホームページの構築

研究分担者 渡邊知映 昭和大学保健医療学部
研究協力者 服部文 一般社団法人 仕事と治療の両立支援ネットブリッジ
伊藤嘉規 名古屋市立大学病院・診療技術部
古川陽介 名古屋市立大学病院・緩和ケアセンター
縦野香苗 名古屋市立大学看護学部
岡村優子 国立がん研究センターがん対策研究所・支持・サバイバーシ
ップ TR 研究部

研究要旨：AYA 世代のがん患者の情報に対するニーズは多様である。AYA 世代のがん患者に向けた情報サイトは国内でも取り組まれているが、個々の患者のアンメットニーズに対して網羅された情報サイトが不足していることが明らかになった。また、AYA 世代の患者に頻度の高い有害事象に対して、AYA 世代の生活様式に合わせたセルフケアを支援する情報提供やスマホから閲覧・検索しやすい画面の工夫を行う必要性が示唆された。本年度は、研究協力者の専門分野を活かして分担しながらコンテンツの収集・整理を行い、サイトの構築を行った。

A. 研究目的

AYA 世代の患者に頻度の高いアンメットニーズおよび苦痛のスクリーニング結果をもとに、適切なセルフケア情報提供を可能とするホームページを構築することを目的とした

B. 研究方法

- 1) 国内外の AYA がん情報 HP サイトを概観し、対象・主な掲載コンテンツを整理した。
- 2) AYA 世代の患者に頻度の高いアンメッ

ットニーズについて、スクリーニングシートの結果から、身体的な問題（セルフケアが必要となる有害事象）、家族に関する問題（親や子どもとのかかわり、妊孕性）、日常に関する問題（経済的問題、就学・就労、医療者と関わり、病気の情報等）、気持ちに関する問題について抽出し、国内のサイトや支援団体へのリンクと必要に応じ研究班独自の情報を加えながら、情報サイトを構築した。

C. 研究結果

国内外の AYA に関する情報提供サイトの主

な掲載コンテンツについて整理を行った。国内外のサイトともにがんの知識、主な治療法と副作用、病気との向き合い方、就労・就学、経験者の体験談など掲載コンテンツに大きな差はなかったが、海外の支援サイトは、AYA 世代の患者自身がどう生きていくかといったことや、ピアサポーターの存在や彼らと繋がることを積極的に勧めており、患者本人の行動に繋がるコンテンツが多いことが明らかになった。

本年度はスクリーニングでカットオフ値以上になった項目に対して、セルフケア情報を含めて適切な情報を提供可能なホームページを構築し、本法を用いて臨床試験を開始した。

D. 考察

本研究では、AYA 世代の患者に頻度の高い有害事象に対して、若年世代の生活様式にあったセルフケアを支援する情報提供やスマホから閲覧・検索しやすいサイトの工夫を行う必要性が示唆された。本年度は、研究協力者の専門分野を活かして分担しながらコンテンツの収集・整理を行い、サイトの構築を行った。

現在、本情報提供を含めた介入の予備的

有用性を検証中であり、今後必要に応じてホームページの内容をより適したものに改訂していく予定である。

E. 結論

今後必要に応じてホームページの内容をより適したものに改訂していく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし